

事務事業名	家庭教育学級及び家庭教育通信発行事業		担当	教育委員会 生涯学習課 生涯学習係	
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～	施策名	5	青少年の健全育成
成果指標	名称		単位	5 年度実績	
	家庭教育学級・思春期学級補助金額 家庭教育通信発行部数		千円 部	1,870 47,870	
事業概要	【家庭教育学級】 ・子どもの成長に応じて、望ましい人格の形成を図るため、親として子育てに関する資質の向上を目的に開設した。 ・幼児や小学生を持つ保護者を対象とした学級を幼稚園12園、保育園6園、保育所4所、小学校14校全校に開設している。 ・中学生を持つ保護者を対象とした学級を中学校9校全校に思春期子育て講座（思春期学級）を実施している。 ・各学級の実施内容は、学級長（正副）運営委員（会計、書記等）等の役員と学級主事が、年間の事業計画を作成し、受講生を募集し事業を実施する。実施後報告書を作成。その他市主催等の研修会への参加。 ・市の事務は、各学級からの補助金申請受付、審査、補助金決定通知、請求書交付、支払い（各5万円）、実績報告書受付、学級主事の参観、学級開設説明会等の実施。 ・合同家庭教育学級の実施内容は、家庭教育学級全体運営委員を、各家庭教育学級長の中から8名の学級長を選出し、家庭教育学級の全体的な運営や合同開講式について協議する。なお合同開講式時に学級活動紹介、作品展示等を実施する。 【家庭教育通信】 ・幼児期における保護者などの考え方やしつけを内容とした「すこやか」（昭和53年度～）、小学校の時期における親の心構えやしつけなどを内容とした「のびる」（昭和48年度～）、中学生の個性を認めて親として適切な対応をとることを内容とした「めざめ」（平成5年度～）がある。 ・3信とも「届ける家庭教育」として幼稚園、保育園及び小中学校に就園、就学している保護者に発行している。 ・また、「すこやか」「のびる」「めざめ」及び各家庭教育学級の活動をまとめた「真岡市の家庭教育」を発行している。 ・編集委員は、「すこやか」のみ6名（幼稚園、保育園関係者）を委嘱している。「のびる」については、自然教育センター、科学教育センターの指導主事及び総合教育センターなどへ、「めざめ」については栃木県連合教育会へ依頼している。				
5 年度 実績・成果・課題	【家庭教育学級】 会議回数8回、家庭教育学級数36学級、思春期子育て講座回数9回 令和5年度は、引き続き、学級主事の負担の軽減に対応するため、開設基準等の一部緩和を継続した。具体的には、活動内容が、親子参加ではなく、やむを得ず子どものみの活動であっても、活動内容を書面等で保護者に伝えることで事業の効果を確保することにより、対象事業として認めるなど、状況に応じて柔軟に対応した。 【家庭教育通信】 会議回数5回（内すこやか5回）、発行回数15回 家庭教育通信のびるについて、過去に校長会より業務負担等の要因から小学校教諭を編集委員として推薦することが難しくなる可能性があるという提言を受け、令和5年度は、1信分を放送大学へ、2信分を総合教育センターへ原稿執筆を依頼し、実施した。また、オンラインフォームによる読者の声を集める取組を実施している。				
今後の方向性と 具体策	☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 【具体的な改善案】 【家庭教育学級】 学級生の負担軽減と事務効率の向上のため、各種申請について、オンラインフォームを導入するなど、状況に応じて柔軟に対応する。 【家庭教育通信】 原稿執筆を外部機関へ委託する等、教諭の負担を軽くする試みについて、引き続き、調査研究を進めるとともに、従来と同様に現場での経験を生かした執筆機会の維持を図っていく。 また、オンラインフォームを活用した読者の声を集める取組を継続する。				